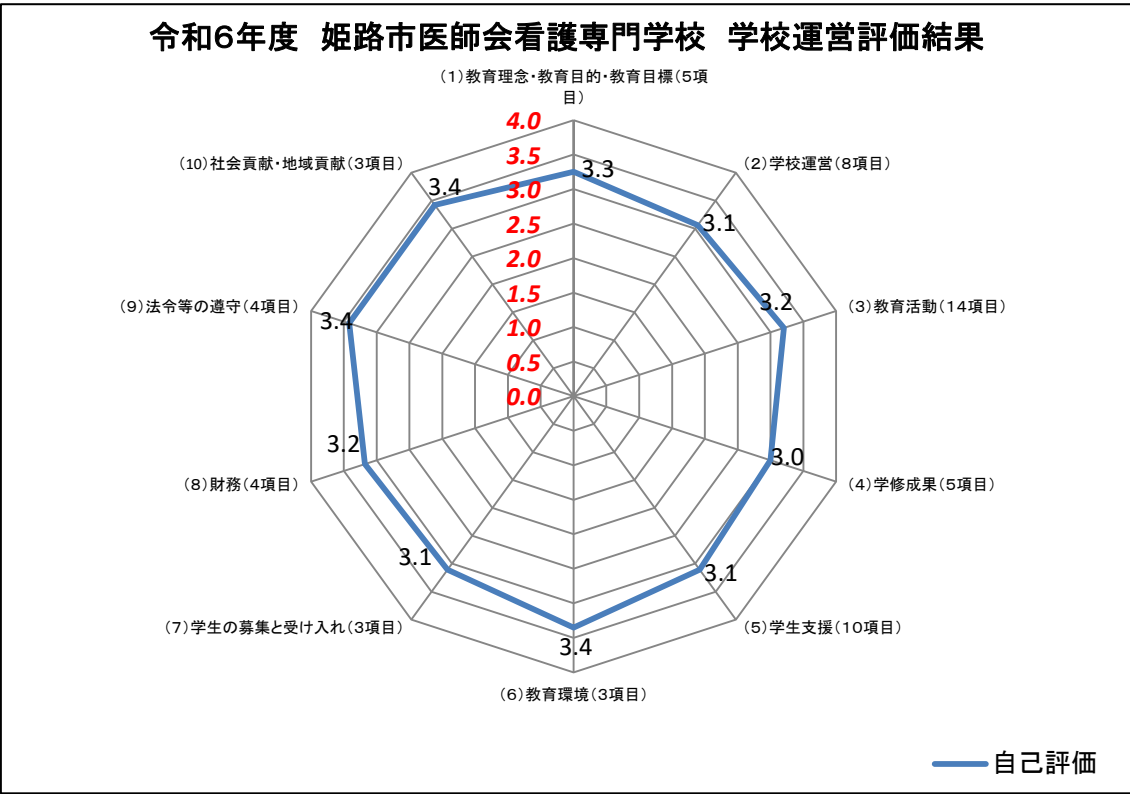


学校評価（自己評価・学校関係者評価）

1 学校運営評価結果（令和6年度）

評 価 項 目	自己評価
(1) 教育理念・教育目的・教育目標（5項目）	3.3
(2) 学校運営（8項目）	3.1
(3) 教育活動（14項目）	3.2
(4) 学修成果（5項目）	3.0
(5) 学生支援（10項目）	3.1
(6) 教育環境（3項目）	3.4
(7) 学生の募集と受け入れ（3項目）	3.1
(8) 財務（4項目）	3.2
(9) 法令等の遵守（4項目）	3.4
(10) 社会貢献・地域貢献（3項目）	3.4
平 均	3.2



2 授業評価結果（令和 6 年度）

学生による授業評価アンケートにより、

- ・授業は 17 項目について 4 段階評価
- ・臨地実習は 42 項目について 5 段階評価

（新カリキュラム）

【基礎分野】	15 講師	各項目 3.2～4.0
【専門基礎分野】	41 講師	各項目 3.3～4.0
【専門分野】	77 講師	各項目 2.6～4.0
【臨地実習】	195 グループ	各項目 1.0～5.0

3 学校関係者評価

令和 7 年 4 月 17 日（木）に、学校関係者評価委員会（教育関係者、実習病院関係者、卒業生、地域住民で構成）を開催し、令和 6 年度自己評価や授業評価結果に関して意見を聴取した。

（主な意見）

- ・学生の確保について、医師会立の看護専門学校のため、大きな病院がバックアップしているイメージを活用すれば効果が上がるのではないかな。
- ・外国人留学生への門戸を広げることにはできないのか。
- ・高等学校の教員から経済的な理由で看護専門学校への進学を断念する学生の相談を受けることがあるため、奨学金制度の広報も含め、高等学校への広報活動にもっと注力してはどうか。
- ・大学では一般的となっている入学試験の成績優秀者を対象とする特待生制度を導入してはどうか。
- ・オープンキャンパスに在校生だけでなく、卒業生からの話を聴ける機会を設けてはどうか。
- ・高等学校への学校説明の機会を設けてはどうか。
- ・臨地実習の評価で教員と指導者の連携や指導の一貫性の項目の評価が低い結果となっているものがあつたが、受験生が就職を決める重要なポイントの一つと思うので、改善すべきではないか。
- ・総合型選抜入試は学生を早期に確保が可能な意義ある制度であり、導入は検討に値する。

4 今後の改善方策

- ・教育理念・教育目的・教育目標の令和 6 年度に策定した三つのポリシーの活用については、今後導入に向けて検討する総合型選抜入試に反映させるとともに、本校の理念、教育目標等と併せて周知に努めていく。
- ・本校の中長期的な将来構想については、看護学校運営委員会の審議状況の周知に努める。

- ・実習施設が豊富で、多様な看護を学ぶことができる本校の魅力については、高校訪問やYouTube、SNSの活用等により周知に努めていく。
- ・学校運営について、学生の出席管理等の教務業務のシステム化については、導入に向けて具体的な検討を進める。なお教務課の事務補助のパート職員を昨年12月から1名配置済み。
- ・一定の経験や能力を有する教員の確保については、医師会の所管部署の協力を得ながら、ナースセンターや市内実習施設とも十分に連携し、優秀な教員の確保に努める。
- ・教員の指導力育成などの資質向上の取組については、教員研修を充実する等能力開発に引き続き取り組んでいく。
- ・看護師国家試験の合格率が低下傾向であることについては、開校以来2回目となる全国平均割れの事態を踏まえて、試験結果を分析し、分析結果を基に受験対策を検証したうえで、見直し、充実を図る。
- ・休学や進路変更に至るケースがある成績低迷者やメンタル問題を抱えた学生への対応については、スクールカウンセラーの活用や保護者との連携を充実させていく。
- ・学生支援で新たに実施したホームカミングデイについては、継続できるよう、季刊誌やホームページ等を活用した連絡、支援の方法を検討していく。
- ・保護者との連携については、SNSの活用を検討していく。
- ・施設設備の老朽化に伴う大規模改修事業については、令和7年度改修工事の実施の可否について検討を進めるとともに、令和8年度以降について姫路市の予算確保に向けて協議をしていく。なお、令和7年度の大規模改修事業に係る姫路市補助金は予算措置が実現しなかった。
- ・学生の募集と受け入れについて、令和7年度募集は特に減少が顕著となり、大幅な定員割れとなった。今後も学生募集活動の充実や入試制度の見直し、効果的な広報活動の実施等、学生確保に資する取り組みを積極的に行っていく。一方で本校の中長期的なあり方の検討も進めていく。なお、文部科学省の高等教育修学支援新制度や厚生労働省の専門実践教育訓練の講座指定等、経済的に困窮している学生への支援措置については整備済。
- ・財務については、学生数の減により収支不足が増高していく可能性があるため、授業料のあり方や新たな財源の確保等について検討するとともに、経費削減にも努めていく。最近の光熱水費や諸物価の高騰を踏まえて、令和6年度及び令和7年度入学生からそれぞれ授業料を増額改定した。
- ・法令等の遵守については、個人情報保護やコンプライアンス意識の保持に万全を期し、将来に向けて維持、継続していく。教職員の研修機会を確保するとともに、注意喚起を適切に行っていく。これまで個人情報の取扱規程や懲戒規程等を順次整備してきた。また、令和6年度から臨地実習に係る授業評価アンケートを開始した。

- ・社会貢献・地域貢献で、ボランティア活動への意識が希薄になり、活動も低調になりつつあることについては、ボランティア活動の趣旨、目的を十分に説明し、理解を得てボランティア活動を継続していく。
- ・教育資源や施設を活用した社会、地域貢献については、今後も社会、地域貢献に積極的に取り組んでいく。姫路城マラソンへのボランティア派遣や地元中学校のトライやるウィーク事業への協力要請にも対応していく。